

第 42 回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録

●平成 28 年 3 月 17 日(木) 10:00～12:00、上尾市文化センター

【議事結果】

- ① 平成 28 年度のモニタリング計画案を了承する。
- ② モニタリング結果のとりまとめ資料については、意見・疑問点があれば 4 / 15 までに事務局へ提出する。その結果を反映して公開する。
- ③ 管理したい対象種の優先順位を考えて、その種に効果的な方法を実施したい。
- ④ 植えたハンノキの周辺の草刈りが必要と考えるので、維持管理・環境管理専門委員会で検討することとする。
- ⑤ イベント実行委員会および維持管理委員会から提案のイベント案を了承する。
- ⑥ 地域に貢献したいという気持ちのある方々の受け皿となり、管理・調査の担い手となる「荒川大学」のような枠組みが三ツ又沼ビオトープや太郎右衛門地区関係組織をベースにできると良い。この検討を進めたい。各委員においてこれに対する意見を提出する。

【主な議事内容】

◎協議事項

●第 41 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録

(質疑応答無し)

●生態系モニタリング専門委員会の活動

- ・ 平成 28 年度のモニタリング計画案を了承する。
- ・ モニタリング結果のとりまとめ資料については、意見・疑問点があれば 4 / 15 までに事務局へ提出する。その結果を反映して公開する。
 - 現地状況の映像をまとめて公開してはどうか。
 - 広報 WG で検討してほしい。公開範囲はモニタリングで判断する。
- ・ 研究テーマを考えたい。学生に頼むという案がよく出てくるが、学生は就活で忙しく頼れない。委員ができることを考えてくれば、大学が保有している機械を貸し出すことはできる。このような取り組みが新たな展開のきっかけになると思う。
 - 個人的には興味があっても、個人で実施するのは難しい。専門家がアドバイザーについてくれて、チームが作れば可能かもしれない。
 - 面白い取り組みとは思いますが人を集めるのが難しい。やってくれる人の発掘が必要であるし、運営側も覚悟がいる。
 - 実施できる体制をもっている団体に声をかけたい。
 - 子どもの学習にも活用したいが、そのためには受け入れの組織体制と施設が必要である。

●維持管理・環境管理専門委員会の活動

- ・ 駆除を目的として伐採をするのであれば、効果的な時期を考えるとよい。

→管理したい対象種はいろいろあるが、すべてをすぐにはできないので、優先順位を考えて、研究成果を利用してその種に効果的な方法を実施したい。

- ・ 植えたハンノキの周辺の草刈りが必要と考えるので、維持管理・環境管理専門委員会で検討することとする。

●広報WGの活動

- ・ イベントは内容と対象者の組み合わせの適性を考えて実施したい。伐採は少人数の方が良い。一般の方をある程度の規模で集めて実施するのであれば、草ぬきや昆虫観察が良い。

→市民対象に実施する場合委は安全第一で実施するべきである。伐採はプロに実施してもらうようにする。

- ・ WGでは、イベントに限らず広報の在り方を考えたい。

→三ツ又沼ビオトープでは学校や企業をまわって意見を収集しているが、市民も含めて自然に対する理解がない。子どもを呼ぶことでその親に自然を知ってもらうことがとても重要である。出丸小学校は校長先生が熱心で協力してくれているが、三ツ又沼ビオトープのことを考えるのがせいっぱいで、太郎右衛門地区までは手が及ばない。地道に宣伝を繰り返していくしかないと思う。

→これまでのイベントは、まずは「知ってもらう」ことを主眼にしていたことは再確認しておきたい。このような事業に参加してくれるのは、中高年で、ある程度の経済的余裕があって、地域に貢献したいという気持ちのある方々が主たる層である。こういう人たちの受け皿を、荒川全体で作れると良い。管理だけでなく、調査の担い手としても考えられるので、三又や太郎をベースに「荒川大学」のような枠組みができると良い。そこではまず自然環境・保全などの基本的な「理念」を共有してもらうことが前提である。出丸小学校が廃校になるのであれば、そこを防災ステーション兼キャンパスにして、本格的にやっていくようなことを考えたい。

→とてもいい案である。子どもについては忙しくて集めにくいですが、教育委員会や子どもを扱う団体のリーダーなどに声をかけたい。

→ターゲットを絞ることと、同時に一般の広い裾野に向けての2つの取り組みを同時に進めたい。

→この提案については積極的に検討を進めたい。各委員においてこれに対する意見を提出する。

- ・ イベント実行委員会および維持管理委員会から提案のイベント案を了承する。

以上